

「中近東文化センター」 研修会に参加して

陸士48家族会員 秋山 政隆

● 研究施設設立の経緯

陸士四八期卯月会会員有志10名は、三笠宮崇仁親王殿下の遺徳を偲ぶと共に殿下の研究されたイスラムに関する知識を万分の一でも吸収して今後の殿下の顕彰活動に資するという目的のもと令和元年12月20日、東京都三鷹市大沢（JR中央線武蔵境駅よりバス10分）に在る中近東文化センターに伺いまし



当日は元トルコ大使で現在中近東文化センター附属博物館理事長の阿部知

之様直々にご案内戴き館内を参観いたしました。殿下のご功績を時系列でご説明戴き、また逸話を交えながらのお話は、初心者にも分かりやすく、大変有意義な研修の時間となりました。

当施設ホームページに依れば、中近東文化センターは、時間的・空間的に壮大で、内容が豊富な中近東の歴史的文化を研究する場として、また、その成果を公開する施設として、三笠宮崇仁殿下のご発意の下、設立されました。

以下、阿部理事長からお聞きした内容を記してまいります。それ以前の時期は国内に於いて中近東についての史実をまとめた資料があまり存在しておらず、殿下は①集める（調査する）②展示（知らせる）③研究（理解を深める）の三本柱を軸に、国民に史実を知らせて研究を深めることに尽力されました。その結果、中近東歴史分野としては、日本一の研究施設が完成しました。

設立に際しては殿下御自ら各国を行脚され、ご自身の研究、調査内容をテーマとしてご講演を重ねられ、設立資金に充てられました。また、当時の佐藤栄作総理を通じ資金調達のため経団連に働きかけましたが、最終的には、故出光佐三氏（出光興産株式会社創業者）

の全面的な協力を得て、昭和54年10月に開館、現在に至っております。

● 所感

今回最も印象に残りましたのは、殿下の決して妥協しない研究姿勢と教育に懸ける熱意であります。例えば史料収集においては、それまでの殆どの史料が支配者層に属する偏った史料の中に注力し、既存のものにとらわれず、ご自身の納得する境地に至るまで深掘りされる姿勢など大変ご立派であると感じた次第です。また教育分野に於かれましては、教鞭をとられた東京女子大学では、ヘブライ語の入門書、テキスト、練習問題等の教材を作成、配布され、それらを添削されるなど、その熱意と能力は桁外れであったとのこと。殿下のお書きになられた注釈ノートにもその痕跡を見ることが出来ます。

最後になりますが、改めてこの度の貴重な機会を賜りました中近東文化センター、阿部知之理事長様、卯月会事務局長衣笠様をはじめとする会員各位に感謝の気持ちを添えさせて戴きます。

（卯月会会員）